

横浜市小学校社会科研究会

○学年部会

研修会記録

第 6 号

令和元年 12月 4日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 加 藤 沙 智 子

【提案日時】

10月30日（水）

提案 森 圭一朗先生（西富岡小）

小林 宏幸先生（山元小）

【会 場】

横浜市立丸山台小学校

司会 辰野 経先生（伊勢山小）

山本 哲二先生（上末吉小）

記録 近藤 舞先生（牛久保小）

能登 清仁先生（阿久和小）

○单元名

「情報を生かして発展する外食産業～ビッグデータを活用する回転寿司店S～」

○提案者より

- 本気の学習問題について、社会的事象を取り上げるのがよいのではないかと。「情報を活用して産業が発展しているところを具体的に考える」or「S店の取組みから日本全体に広がっていくところ」or「どうして流す寿司を決めるのは店長の経験が必要なのか」
- 本時の資料が店長のインタビュー資料では、答えのようになってしまい、子どもたちは思考しないのではないかと。→これから取材のため、仮資料を作成しているがどうか。
- 児童の実態として、調べた情報をそのまま書く子が多い。情報をうのみにするのではなく、「人が判断する」ことについて考えさせたい。

○協議内容

本時について

- 情報システムだけでなく、人の経験が必要だということに気付いていくのは6時間目になっている。社会的事象の意味を考える時間にすると考えると、本時は6時間目がよいのではないかと。
- 仮資料の「すし総合管理システムが指示したすしネタ」と「実際に提供したすしネタ」の相違は、子どもたちが思考する資料になるのではないかと。
- 本時内容では、早々に結論が出る可能性があるのでは。子どもは思考するが、ゆさぶりはどうか。→授業の途中で学習問題が出てくるよりも、はじめから学習問題について話し合う時間にしたい（提案者）。
- 「人の判断が必要」という事実は、キーになる。しかし、店長の判断を生かすにはビッグデータが出してくれる情報も必要。店長さんの判断する選択肢が広がるのは情報のおかげであるということに気付いていくとよいのではないかと。総合管理システムがあることが、店長の判断の裏付け

にもなる。

- 総合管理システムが入る前とその後の違い（売り上げや廃棄量等）がわかる資料はどうか。それが見えることで、情報の有効性に気付いていくことができ、さらにその情報を活用して判断に生かしているということが、わかるのではないか。→どのように資料化していくか。

○単元名：自然災害とともに生きる～東日本大震災から考える日本の防災～

○提案者より

- 本気の学習問題を作るにあたり大切にしたいこと。
問いかけ、児童が立ち止まるような場面を大切にしたい。
- 次回の取材では住民の方の現在の声を聞きたい。
前回の取材では住民の不安が出てこなかった。

○協議内容

- 新たな堤防を作ることに對して
高さの決定について児童の問題意識が提示の資料だけでつかめるのか。
児童がどの立場から考えていけばよいのか
→立場によって考え方が変わってくるのではないのか。
- 東日本大震災での被害状況が、児童の中でどれくらいイメージがつかめているかが大切になってくるのではないか。
高さについて話し合う場合は、津波の被害にあった場所がどういうところなのかを把握していなければ中身の無い話し合いになってしまう。

<講師の先生より>

菊名小学校 校長 野間 義晴 先生

- 子どもたちがどれだけ考えられるかどうか、を考えていく必要がある。
- 情報と人（店長）の判断のどちらも大事、ということに落ち着くのは工業単元でも見られるが、この単元を通して、どのような事実を子どもたちに見せていくのか、が大事なこと。
- 児童がどの立場になって考えていくことはとても大切。どういう事実を伝え、どの立場になって考えていくことが大切になってくる点ではないか。

文責 加地 亮祐 (新鶴見 小学校)